

令和2年度 神奈川県立相模原総合高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

検証結果（A：目標達成 B：ほぼ目標達成 C：さらに努力する必要あり）

取組課題	目標	行動計画	検証内容	検証結果
1 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、真摯な態度で指導に当たる。	① 体罰や不適切指導に関する具体例を提示し、日ごろから生徒の人権に配慮した指導を心がける。	生徒からの相談等がしやすい支援体制を整え、各年次の教育相談担当と養護教諭を中心に整備した。日頃から体罰や不適切な言葉や指導等がないよう人権に配慮した行動を徹底した。また、管理職への「報告・連絡・相談」を徹底した。	A
		② 「校内人権窓口」の生徒への周知を図り、担当を中心に生徒が相談できる支援態勢づくりを進める。また、円滑なコミュニケーションを図る職場づくりに努める。		A
2 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報を適切に取扱い、情報の流出を未然に防止する。	① 啓発資料やチェックシートを職員に配付して、意識啓発を図り、個人情報の流出や滅失を未然に防止する。	行政課からの啓発資料や不祥事防止チェックシートを職員に配付して、意識啓発を図り、個人情報の漏洩、滅失を防止した。 また、個人情報を持ち出す際には管理職と相談し必要な手続きを徹底した。保管は暗号化サーバーでの管理、鍵の掛かる場所で保管に努めた。	A
		② 個人情報を持ち出す際の「個人情報持ち出し許可願」による申請など、手続きの徹底を図る。USBの管理を徹底する。また、暗号化システムを活用する。		A
3 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止	法規範を遵守し、交通事故の発生を未然に防止する。	① 交通事故・違反事例の解説等を実施し、交通事故防止の意識を高める。	今年度は、感染症拡大防止の観点から外部講師による本年度は実施できなかったが、日常の交通事故防止の行動を徹底した。日常に起こりうる交通事故や違反事例の解説等を実施し、交通事故防止の意識を高めることができた。	A
		② 外部講師を招いて、交通事故の防止、酒酔い運転等の犯罪性の高さを理解する。 相模原北警察の関係者に依頼する予定である。		A
4 業務執行体制の検証	業務執行にあたり、事故を未然に防ぐため情報を共有し、相互チェックを行う。	① 教職員一人ひとりが、事故不祥事発生の危険を意識し、業務執行体制を絶えず改善する。情報の共有や複数で対応することを徹底する。チェックや協力体制などを話し合える風通しの良い職場づくりを進める。	個人情報に係る業務はマニュアルに沿った運用を行い、重点事項は追加資料を配付し業務の点検・確認を徹底し不祥事防止に努めた。 また成績処理方法を見直しシステムを構築し定着させることでより単純化し、ミスを未然に防ぐ体制を整備した。	A
		② 成績関連の個人情報に係る業務は、マニュアルに沿った運用を行なうとともに、確認・点検を徹底して、事故・不祥事を防止する。		A

取組課題	目標	行動計画	検証内容	検証結果	
5	わいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止	人権意識を高めわいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止する。	① パワハラ・セクハラ防止セルフチェックを実施し、意識啓発を行う。	スクールセクハラ、パワハラ防止のセルフチェックを実施し意識啓発を図った。 関連する新聞記事や啓発資料を活用し、人権に配慮した対応の徹底を図った。	B
			② パワハラ・セクハラ・わいせつ行為に関する新聞記事や啓発資料を活用し、人権に配慮した対応の徹底を図る。		A
			③ 職員全員面接を実施		A
6	不適正経理処理の再発防止、私費会計の適正執行	公費・私費・現金管理に関するトラブルや事故不祥事を未然に防止する。	① 「私費会計基準」「私費会計事務処理の手引」についての理解を深め、公正な予算編成と適切な会計処理に努める。	「公費・私費会計基準」や「私費会計事務処理の手引」を参考に、適正な予算編成と公正な執行管理に努めた。外部監査など機会を通じて執行状況を確認し、指摘事項を整理・改善を図った。	A
			② 財務事務調査や私費会計執行状況および監査の指摘事項を確認し、私費会計、部費会計の公正な取扱を徹底する。		B
7	入学者選抜の事故防止	入学者選抜業務を適切に行う。	① 本校では令和2年度より全職員による入学者選抜業務は実施されないが業務やマニュアルの確認、点検体制など計画的に業務を遂行する。	本年度の入学者選抜の注意事項や計画を確実に伝達できるよう管理職より説明し、他校での入学者選抜業務を遂行した。	A
8	公務外非行	常に公務員の自覚をもち、県民の信頼を損なう行為を防止する。	① 具体的事例を通して、日常的に意識啓発に努める。	新聞記事などの具体的な事例を通して、日常的に意識啓発に努めた。自己点検等を実施して、個々の職員が法令遵守（コンプライアンス）の意識を高めた。個別面談などを通して、教育公務員としての意識啓発をする時間を設定した。	A
			② 自己点検等を実施して、個々の職員のコンプライアンスへの意識を深める。		A
			③ 管理職との個別面談を適切な時期に実施して、校務への意識及び事故防止への取り組みについて再確認する。		A
9	外部への適切な対応	外部との対応については適切に行う。	① 来校者への挨拶、迅速な電話対応と学校名、氏名を伝えるなどの丁寧な対応を行うよう努める。	個々の職員が自己点検をして、来校者などへの挨拶、迅速な電話対応と所属名、氏名を名乗るなど丁寧な対応を行うように努めた。	A
			② 自己点検等を実施して、個々の職員のコンプライアンスへの意識を深める。		A
10	個々人の事故防止の意識向上	研修実施の蓄積と日々の環境整備を行う。	① 個人ファイル「事故不祥事防止研修ファイル」を作成し、すべて研修資料を管理し時宜に応じた資料り振り返りを通して日常的に意識啓発に努める。	事故不祥事防止研修の専用ファイルを個々の職員に作成し、日々研修会の振り返りが図れるよう取組む。また各準備室の整理整頓に努めた。	A
			② 定期的な職員室や教科準備室の環境整備に努める。		A